

第3節

メディアとの接触

1. パソコンの利用(1)

子どもたちの4割以上が「週に1日以上」[※]パソコンを利用している。ただし、利用しても、「週に1～2日」が多い。パソコンを使う場合、家での利用が学校よりも多い。家での利用が多いのは中学生で、学校での利用が多いのは高校生である。

◆家での利用と学校での利用

パソコンは、今や日常生活に欠かせないものとなっている。IT化は、着実に浸透している。これは、おとなにとっては当然のことであるが、子どもたちのメディアへの接触状況はよくわかっていない。

そこで、子どもたちが、1週間にどれくらいパソコンを使っているのか、家と学校のそれぞれについて質問した。学校段階別に、家でのパソコン利用の結果を示したものが図1-3-1である。まず、「家にはない」の回答から、小・中・高校生とも、8割近くの家にはパソコンがあることがわかる。利用頻度については、「ほとんど使わない」が最も多いが、「週に1～2日」利用する回答も多い。この結果から、4割以上の子どもたちが「週に1日以上」[※]はパソコンを利用していることがわかる。中学生は家でパソコンを利用している割合が高い。

学校でのパソコン利用の結果が、図1-3-2である。小・中・高校生とも「ほとんど使わない」が最も多い。家での結果と比べても利用頻度は低い。利用する場合、「週に1～2日」が圧倒的に多く、学校ではあまり活用されていない。「週に1日以上」[※]利用している割合をみると、高校生に多い。「情報

関係の授業などで、パソコンに触る機会があるということだろうか。

◆地域別と成績・高校偏差値層による差

「週に1日以上」[※]パソコンを利用する割合が、地域や成績(小・中学生)・偏差値層(高校生)によって違うのか、学校段階別にみていこう。

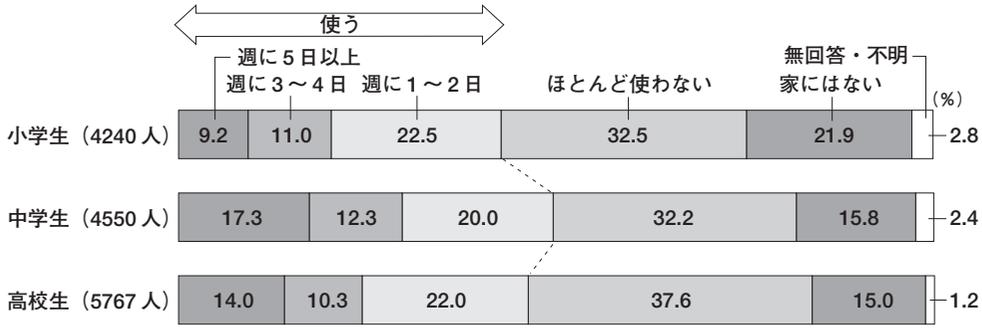
表1-3-1は、地域別にみた結果である。家での利用は、小学生では大都市と中都市に多い。中学生では差はない。高校生では大都市に多い。学校での利用は、小学生では中都市に多い。中・高生では郡部に多い。家で利用する割合や、学校で利用する割合には、地域によって差がみられる。

表1-3-2は、成績(小・中学生)・偏差値層(高校生)別にみた結果である。家での利用は、小学生では、成績上位層に多い。中学生では、上位・中位層に多い。高校生では、進学校に多い。成績が高い層は家でパソコンを利用している。学校での利用は、小・中学生では大きな差はない。高校生では、進路多様校と進学校に多い。家でのパソコン利用については、成績との関係がみられるが、学校での利用では高校生を除いて差はみられない。

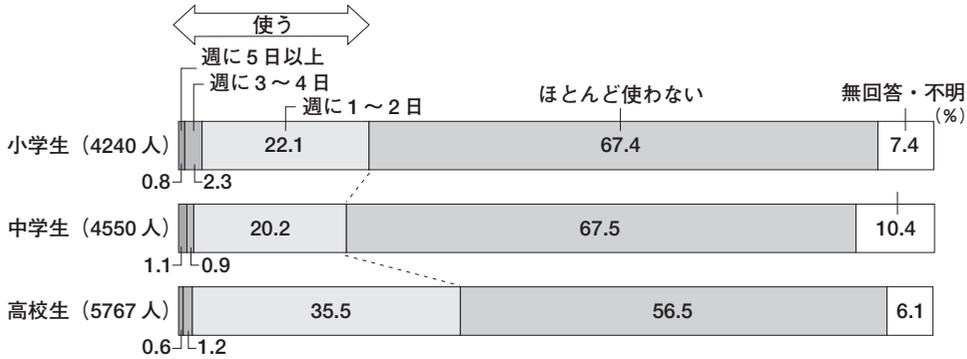
*この節の項目の高校について、「無回答・不明」の多い学校は、学校ごと対象から外している。

※「週に1日以上」＝「週に1～2日」＋「週に3～4日」＋「週に5日以上」

■図1-3-1 家でのパソコン利用（学校段階別）



■図1-3-2 学校でのパソコン利用（学校段階別）



■表1-3-1 家と学校でのパソコン利用（学校段階別、地域別）

	小学生			中学生			高校生		
	大都市 (1460人)	中都市 (1494人)	郡部 (1286人)	大都市 (1498人)	中都市 (1458人)	郡部 (1594人)	大都市 (1707人)	中都市 (1495人)	郡部 (2565人)
家で	45.6	43.9	38.3	50.3	49.8	48.8	55.5	43.9	41.5
学校で	18.8	34.1	22.3	14.7	22.5	29.0	16.4	39.8	49.8

「週に1~2日」+「週に3~4日」+「週に5日以上」使うと回答した%

■表1-3-2 家と学校でのパソコン利用（学校段階別、成績・高校偏差値層別）

	小学生			中学生			高校生		
	上位 (1257人)	中位 (1344人)	下位 (1259人)	上位 (1581人)	中位 (1485人)	下位 (1412人)	進学校 (2494人)	中堅校 (2364人)	進路多様校 (909人)
家で	50.1	42.1	36.7	54.9	52.9	41.0	53.5	43.3	33.6
学校で	28.1	25.9	25.8	23.8	20.7	22.0	40.3	27.2	55.5

「週に1~2日」+「週に3~4日」+「週に5日以上」使うと回答した%

注) 成績（小・中学生）は、国語・算数（数学）・理科・社会・英語（中学生）の自己評価の合計点によって3区分した

2. パソコンの利用 (2)

パソコンの利用内容は、学校段階によって、違いがある。小学生は「ゲーム」を中心とした使い方をする。中・高生は「インターネットで趣味や遊びのことを調べる」ことを中心とした使い方をする。パソコンについては、どの学校段階においても、「パソコンをもっと使いこなせるようになりたい」「パソコンを使うのが楽しい」という回答が多い。

◆パソコンですること

利用頻度は多いとはいええないものの、子どもたちはパソコンに触った経験はあるはずだ。ここでは、実際にパソコンをどのように使っているか、利用内容についてみていく。

パソコンの利用内容として、ここで12項目を用意した。これを学校段階別にみたものが図1-3-3である。学校段階によって、利用内容が大きく異なっていることがわかる。

小学生では、「ゲームをする」が圧倒的に多い。次いで、「インターネットで趣味や遊びのことを調べる」「インターネットで勉強のことを調べる」「絵を描く」ことに使う。

中学生では、「インターネットで趣味や遊びのことを調べる」が圧倒的に多い。次いで、「ゲームをする」「インターネットで勉強のことを調べる」「電子メールをやりとりする」ことに使う。

高校生では、中学生同様、「インターネットで趣味や遊びのことを調べる」が圧倒的に多い。次いで、「ゲームをする」「インターネットで勉強のことを調べる」「文章を書く」ことに使う。

パソコンの利用内容の多くが、「ゲームをする」「インターネットで趣味や遊びのこと

を調べる」「インターネットで勉強のことを調べる」である。利用の中心が、小学生の「ゲーム」から、中・高生になるにつれ、「インターネット」へと移り変わる。

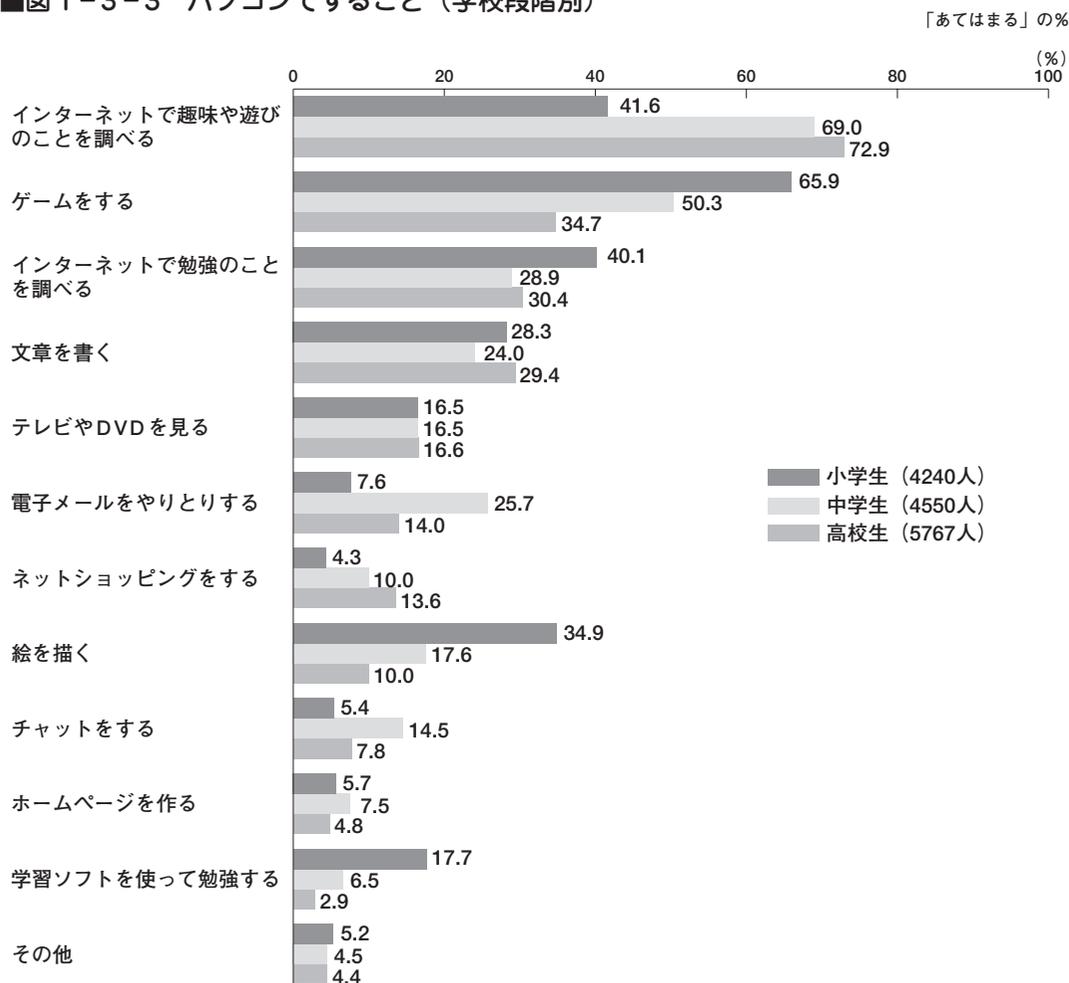
◆パソコンについてあてはまること

パソコンについて、あてはまること、感じていることをたずねてみた。その結果が、図1-3-4である。

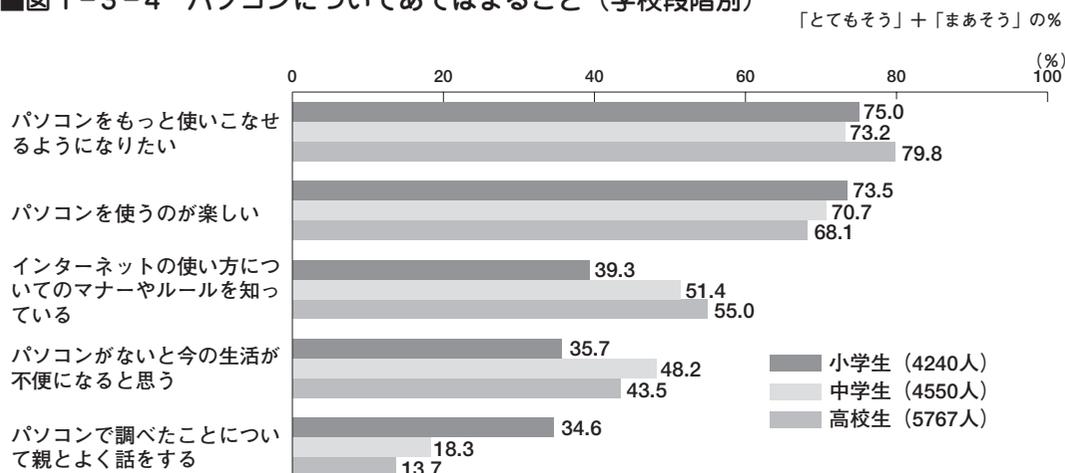
どの学校段階においても、「パソコンをもっと使いこなせるようになりたい」「パソコンを使うのが楽しい」の回答が多い。パソコンに触れることに好意的であり、さらにうまく利用したいと考えているようだ。

学校段階で、回答に差がある項目もある。「インターネットの使い方についてのマナーやルールを知っている」では、小学生の回答は少ないが、中・高生になるにつれ、多くなっている。実際に操作を重ねながらネット社会のマナーなどを学ぶのだろう。「パソコンがないと今の生活が不便になると思う」と多く感じているのは中学生である。「パソコンで調べたことについて親とよく話をする」のは小学生で、中・高生では少ない。

■図1-3-3 パソコンですること（学校段階別）



■図1-3-4 パソコンについてあてはまること（学校段階別）



3. 携帯電話の利用（1）

携帯所有率は、学年が上がるにつれて、その割合も増える。とくに高校生では9割以上が所有している。どの学校段階においても、男子よりも女子の所有率が高い。また、小・中学生では、中都市・郡部と比べて、大都市の所有率が高い。1日に携帯電話を使ってすることは、小学生は「家族にかける電話」が多く、中・高生は「友だちに送るメール」が多い。

◆携帯所有率

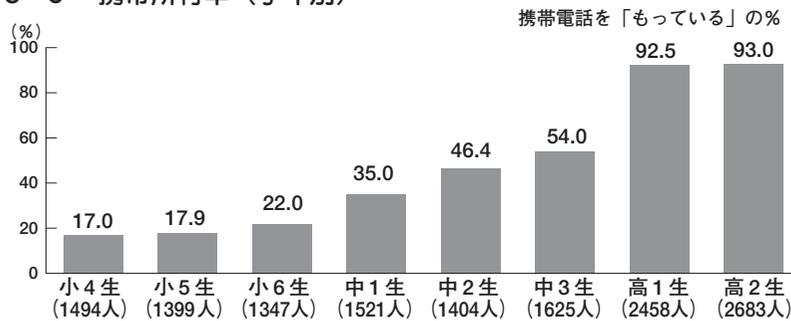
現在のところ、子どもたちの携帯電話の所有率はどのくらいなのであろうか。携帯電話（PHSを含む）を「もっている」割合（以下携帯所有率とする）を、各学年別にみたものが、図1-3-5である。学年が上がるにつれて、携帯所有率が上がっていることがわかる。

小学生の段階では、携帯所有率が2割前後で少ないといっている。しかし、中学生の段階では、学年が上がるにつれて、半数が所有するようになっている（中1生35.0%→中2生46.4%→中3生54.0%）。高校生の段階では、9割以上が所有している。彼らにとっては、もはや所有が当然となりつつある。

学校段階別に、性別による違いをみたものが、表1-3-3である。どの学校段階でも、男子よりも女子の携帯所有率が高く、中学生での性差が大きい。

同じく、地域別でみたものが、表1-3-4である。高校生では、どの地域であるかにかかわらず、携帯所有率が高い。小・中学生では、中都市・郡部に比べて、大都市での携帯所有率が高い。これは、親が子どもに安全対策として持たせていると考えることもできる。子どもたち自身も友だちとの関係のために所有を望んでいるとも考えられる。ともかく、都市空間において、携帯電話は必要不可欠なメディアということなのだろうか。

■図1-3-5 携帯所有率（学年別）



■表1-3-3 携帯所有率（学校段階別、性別）

携帯所有率 (%)					
小学生		中学生		高校生	
男子	女子	男子	女子	男子	女子
(2172人)	(2062人)	(2278人)	(2254人)	(2762人)	(2361人)
16.3	21.6	39.1	51.4	90.5	95.5

携帯所有率を「もっている」の%

■表1-3-4 携帯所有率（学校段階別、地域別）

携帯所有率 (%)								
小学生			中学生			高校生		
大都市	中都市	郡部	大都市	中都市	郡部	大都市	中都市	郡部
(1460人)	(1494人)	(1286人)	(1498人)	(1458人)	(1594人)	(1707人)	(1495人)	(1939人)
29.4	14.1	12.6	63.0	40.3	33.2	93.9	91.3	92.9

携帯所有率を「もっている」の%

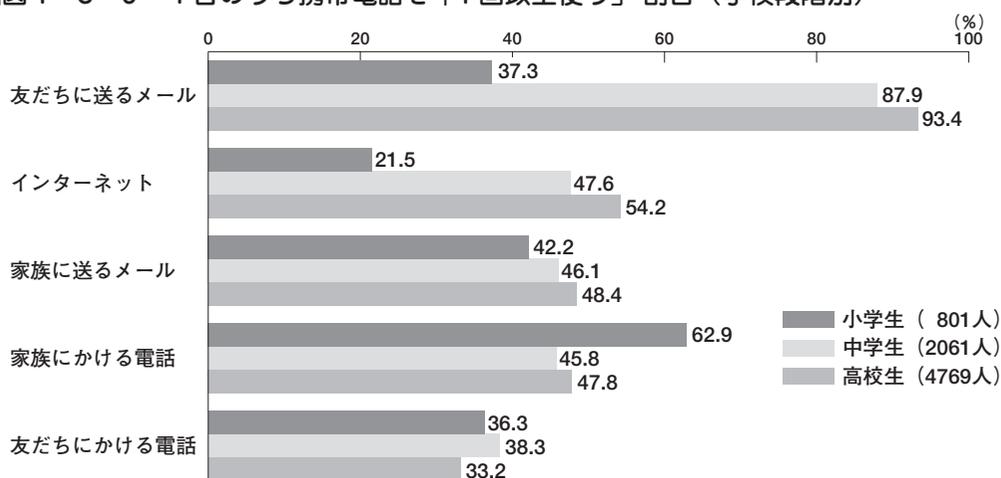
◆ 1日に携帯電話ですること

携帯所有者のみに対し、1日に携帯電話をどのくらい使うのか、5つの項目を用意してたずねた結果が図1-3-6である。数値は「ほとんど使わない」以外の、1日に「1回以上使う」[※]と回答した割合である。

小学生は、全体的に頻繁には使っていないが、「家族にける電話」が最も多い。次いで、「家族に送るメール」をよく行う。学習塾や習い事などの外出から帰る際に、家に連絡を

しているのだろう。中・高生は「友だちに送るメール」が最も多い。次いで、「インターネット」をよく行っている。直接、だれかと話をするだけでなく、メールを使ったコミュニケーションとして携帯電話を利用している。

学校段階別でさらに性別にみたものが、表1-3-5である。女子は男子よりも「友だちに送るメール」の回数が多い。「家族に送るメール」も同様である。女子はメールをよく利用している。

■図1-3-6 1日のうち携帯電話を「1回以上使う」[※]割合（学校段階別）

注) 携帯電話を「もっている」と回答した者のみ

■表1-3-5 1日のうち携帯電話を「1回以上使う」[※]割合（学校段階別、性別）

	小学生		中学生		高校生	
	男子 (354人)	女子 (446人)	男子 (890人)	女子 (1158人)	男子 (2499人)	女子 (2255人)
友だちに送るメール	20.1	51.2	83.0	91.7	90.4	96.5
(内訳)						
1～2回くらい	6.2	10.8	8.0	6.2	15.0	10.3
3～5回くらい	3.7	11.2	12.8	12.4	21.5	19.6
6～10回くらい	3.4	11.7	14.0	18.0	19.5	21.7
11～20回くらい	1.4	4.5	13.7	16.1	13.8	17.8
21回以上	5.4	13.0	34.5	39.0	20.6	27.1
インターネット	19.5	23.0	44.3	50.2	55.5	52.8
家族に送るメール	31.3	50.8	41.8	49.4	40.8	56.6
家族にかける電話	55.6	68.5	46.5	45.2	43.0	53.3
友だちにかける電話	31.3	40.3	41.5	35.7	36.8	28.9

注) 携帯電話を「もっている」と回答した者のみ

※ 「1回以上使う」＝「1～2回くらい」＋「3～5回くらい」＋「6～10回くらい」＋「11～20回くらい」＋「21回以上」

4. 携帯電話の利用 (2)

携帯所有者に、携帯電話について思うこと、あてはまることをたずねると、どの学校段階においても、「携帯電話がないと今の生活が不便になると思う」「携帯電話を使うのが楽しい」と感じている。中・高生では、「何もすることがなくなると、すぐに携帯電話を見てしまう」「電話やメールがこないときみしくなる」といった回答が多くなる。携帯電話が生活に浸透している結果であると同時に、携帯電話に依存した生活が強くなっていると解釈することもできる。

◆携帯電話について思うこと・あてはまること

携帯所有者のみに対し、携帯電話について思うこと、あてはまることを5つの項目を用意してたずねてみた。各項目に対し「とてもそう」＋「まあそう」と回答した割合を、学校段階別に表したものが、図1-3-7である。

小学生では、「携帯電話を使うのが楽しい」が最も多い。次いで、「携帯電話がないと今の生活が不便になると思う」で半数を超える。

中・高生でも、「携帯電話を使うのが楽しい」「携帯電話がないと今の生活が不便になると思う」の回答は高い。小学生の結果と比べても、その割合は多い。ただ、これらの項目以外に、「何もすることがなくなると、すぐに携帯電話を見てしまう」「電話やメールがこないときみしくなる」についても、半数以上が「とてもそう」＋「まあそう」と回答している。「会ったことがない人と電話やメールでやりとりをすることがある」についても、2割程度の回答がある。

携帯電話は学校段階が上がるにつれ、生活に浸透していく。そこには利用の楽しさがあるだけではない。携帯電話がないことを不便に感じたり、何もすることがなくなると携帯電話を見たり、だれからもメールがこないときみしくなったり、携帯電話に強く依存した

生活も同時に抱えることになる。携帯電話の普及が人々に与える影響については、今後も多方面からのアプローチが待たれよう。

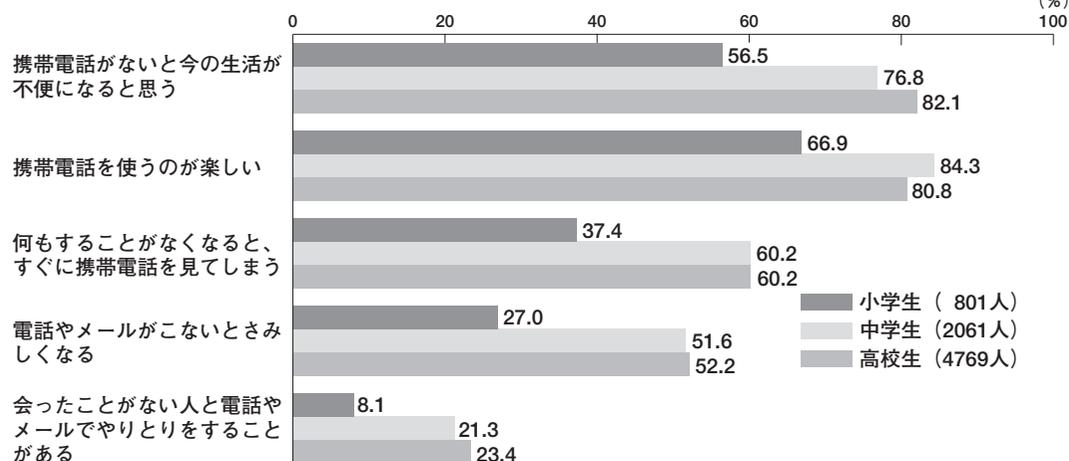
◆性別と成績・高校偏差値層による差

これらの結果をさらに性別でみたものが、表1-3-6である。どの学校段階においても、すべての項目において、男子よりも女子の回答が上回っている。女子は生活のなかに携帯電話が深く浸透している（もちろん、携帯電話を所有している生徒のみに限定されるが）。つまり、携帯電話利用の楽しさ、便利な操作を理解している反面、依存する側面も多くなっているといえる。

同じく、成績(小・中学生)・偏差値層(高校生)別にみたものが、表1-3-7である。小学生の成績下位層に、「何もすることがなくなると、すぐに携帯電話を見てしまう」「電話やメールがこないときみしくなる」が多い。中学生の成績下位層と高校生の進路多様校生徒に、「何もすることがなくなると、すぐに携帯電話を見てしまう」「会ったことがない人と電話やメールでやりとりをすることがある」が多い。

このように、性別、成績・高校偏差値層別の結果から、携帯電話依存の強いタイプと、そうでないタイプがいることがわかる。

■図1-3-7 携帯電話について思うこと（学校段階別） 「とてもそう」+「まあそう」の%（%）



注) 携帯電話を「もっている」と回答した者のみ

■表1-3-6 携帯電話について思うこと（学校段階別、性別）

	小学生		中学生		高校生	
	男子 (354人)	女子 (446人)	男子 (890人)	女子 (1158人)	男子 (2499人)	女子 (2255人)
携帯電話がないと今の生活が不便になると思う	49.7	61.9	69.8	82.0	79.9	84.6
携帯電話を使うのが楽しい	54.8	76.4	76.4	90.3	74.3	87.9
何もすることがなくなると、すぐに携帯電話を見てしまう	28.8	44.4	50.2	67.9	54.8	65.9
電話やメールがこないときさみしくなる	19.0	33.4	41.1	60.0	45.9	59.3
会ったことがない人と電話やメールでやりとりをすることがある	7.9	8.3	15.9	25.2	21.4	25.7

「とてもそう」+「まあそう」の%

注) 携帯電話を「もっている」と回答した者のみ

■表1-3-7 携帯電話について思うこと（学校段階別、成績・高校偏差値層別）

	小学生			中学生			高校生		
	上位 (227人)	中位 (230人)	下位 (263人)	上位 (652人)	中位 (671人)	下位 (708人)	進学校 (2315人)	中堅校 (1596人)	進路多様校 (858人)
携帯電話がないと今の生活が不便になると思う	61.7	50.4	54.8	77.9	77.5	75.2	82.8	82.2	80.4
携帯電話を使うのが楽しい	67.4	68.2	63.5	83.9	84.8	84.3	78.6	82.7	83.1
何もすることがなくなると、すぐに携帯電話を見てしまう	37.4	29.1	46.4	58.7	55.2	66.4	57.3	61.7	65.0
電話やメールがこないときさみしくなる	26.5	21.7	30.8	54.9	46.5	53.4	52.4	52.2	52.0
会ったことがない人と電話やメールでやりとりをすることがある	8.8	5.2	10.6	18.9	18.3	26.0	19.5	26.0	29.6

「とてもそう」+「まあそう」の%

注1) 携帯電話を「もっている」と回答した者のみ

注2) 成績（小・中学生）は、国語・算数（数学）・理科・社会・英語（中学生）の自己評価の合計点によって3区分した